

箕面市一般廃棄物処理計画における目標値の見直しについて

1. 減量・資源化の現状

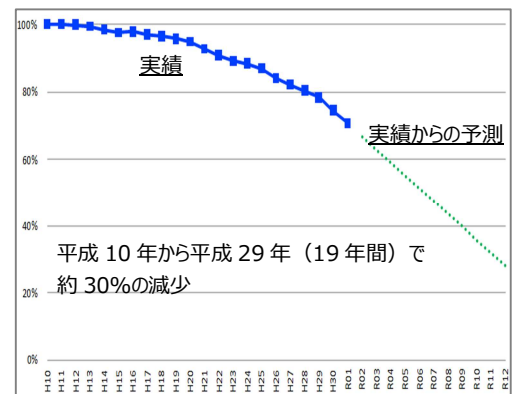
現行の「箕面市一般廃棄物処理計画」は、平成30年4月に策定後、家庭ごみ・事業系ごみは減少が見込まれるが、集団回収量はペーパーレス社会の影響を受け、新聞の発行部数が年々減少するなど排出量そのものが減少したことにより最小目標が未達成で、かつ実績値と目標値の乖離は拡大傾向となっている。

これは、家庭ごみ・事業系ごみは排出量の減少をめざす一方、集団回収量は排出量の増加をめざしていることに起因しているものだが、発生したごみに対する資源化行動だけではなく、排出抑制量も評価されるべきとの本計画の基本的考えのもと、目標値の見直しを検討した。

表. 各目標値の達成状況

項目	令和元年度実績	最大目標値	最小目標値
減量・資源化率[%]	31.6%	45.3%	31.9%
総ごみ排出量[g/人日]	918.4	890.0	924.9
家庭ごみ処理量[g/人日]	535.7	500.0	512.4
集団回収量[g/人日]	67.6	90.1	78.1
事業系ごみ排出量[g/人日]	315.1	299.9	334.4
資源化量[t]	5,701	13,025	6,427
(再生利用率[%])	(12.3%)	(27.6%)	(13.2%)

全国新聞発行部数(国民1人あたりに換算)の変化



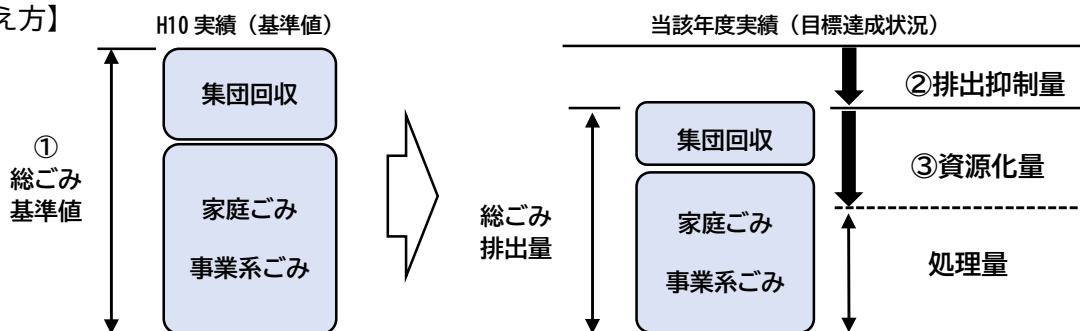
2. 目標値見直しの考え方

本計画は、『減量・資源化率』(平成10年度と比較しどれだけ減量・資源化が進んでいるかを表す指標)の目標値達成が基本である。

よって、目標値の見直しは集団回収量のみにとらわれず、基本目標である減量・資源化率の目標値見直しに着目、既存計画の考え方や枠組みはそのまま、社会情勢の変化を反映した目標値設定が適切と考えた。

なお、本計画の『減量・資源化率』の考え方は以下のとおり。

【考え方】



【算定式】

$$\text{減量・資源化率} = \frac{\text{②排出抑制量} + \text{③資源化量}}{\text{①総ごみ基準値}}$$

社会情勢の変化を取り入れる

固定値

『減量・資源化率』の算出式にある②排出抑制量及び③資源化量の予測と最大値・最小値の設定に、近年の社会情勢の変化を以下のとおり取り入れることで、減量・資源化率の目標値設定とした。

(1) ②排出抑制量の予測と最大値・最小値の補正

排出抑制量 = 総ごみ基準値(固定) - 総ごみ排出量(当該年度値)

↳ <項目> a.家庭ごみ + b.事業系ごみ + c.集団回収量

a.家庭ごみ	R12 予測に社会情勢の変化を取り入れるため、これまでの算定期間を3年間延長 【最大値】国のR7 目標値に設定 【最小値】R12 予測値を設定値に
b.事業系ごみ	R12 予測に社会情勢の変化を取り入れるため、これまでの算定期間を3年間延長 【最大値】R1 実績のごみ量をR12 目標値に(人口増加等を加味せず現排出量をキープ) 【最小値】R12 予測値を設定値に
c.集団回収量	R12 予測に社会情勢の変化を取り入れるため、これまでの算定期間を3年間延長 【最大値】と【最小値】近年の新聞発行部数より将来の発行部数を予測(補正率を設定)

(2) ③資源化量の予測と最大値・最小値の補正

資源化量 = 集団回収量(当該年度値) + 集団回収以外資源化量(当該年度値)

↳ ②排出抑制量 c.集団回収量にて設定済み ↳ ②排出抑制量 a.家庭ごみ b.事業系ごみの設定値に準じる

3. 減量・資源化率の目標設定

各項目を見直し、改めて算定した個別目標は以下のとおり。 ※詳細は別紙のとおり

項目	現計画目標値	見直し案 ^(※)
減量・資源化率[%]	[最大] 45.3	[最大] 39.5
	[最小] 31.9	[最小] 34.1
総ごみ排出量[g/人日]	[最大] 890.0	[最大] 829.8(R02)~816.5(R09)
	[最小] 924.9	[最小] 892.3(R02)~866.4(R09)
家庭ごみ処理量[g/人日]	[最大] 500.0	[最大] 464.5
	[最小] 512.4	[最小] 516.0
集団回収量[g/人日]	[最大] 90.1	[最大] 65.7(R02)~52.3(R09)
	[最小] 78.1	[最小] 63.9(R02)~38.0(R09)
事業系ごみ排出量[g/人日]	[最大] 299.9	[最大] 299.6
	[最小] 334.4	[最小] 312.5
資源化量(再生利用率)	[最大] 13,025t (27.6%)	[最大] 14.1%(R02)~12.7%(R09)
	[最小] 6,427t (13.2%)	[最小] 12.9%(R02)~10.3%(R09)

減量・資源化率の変化

